

運動競技中の事故による救急統計について

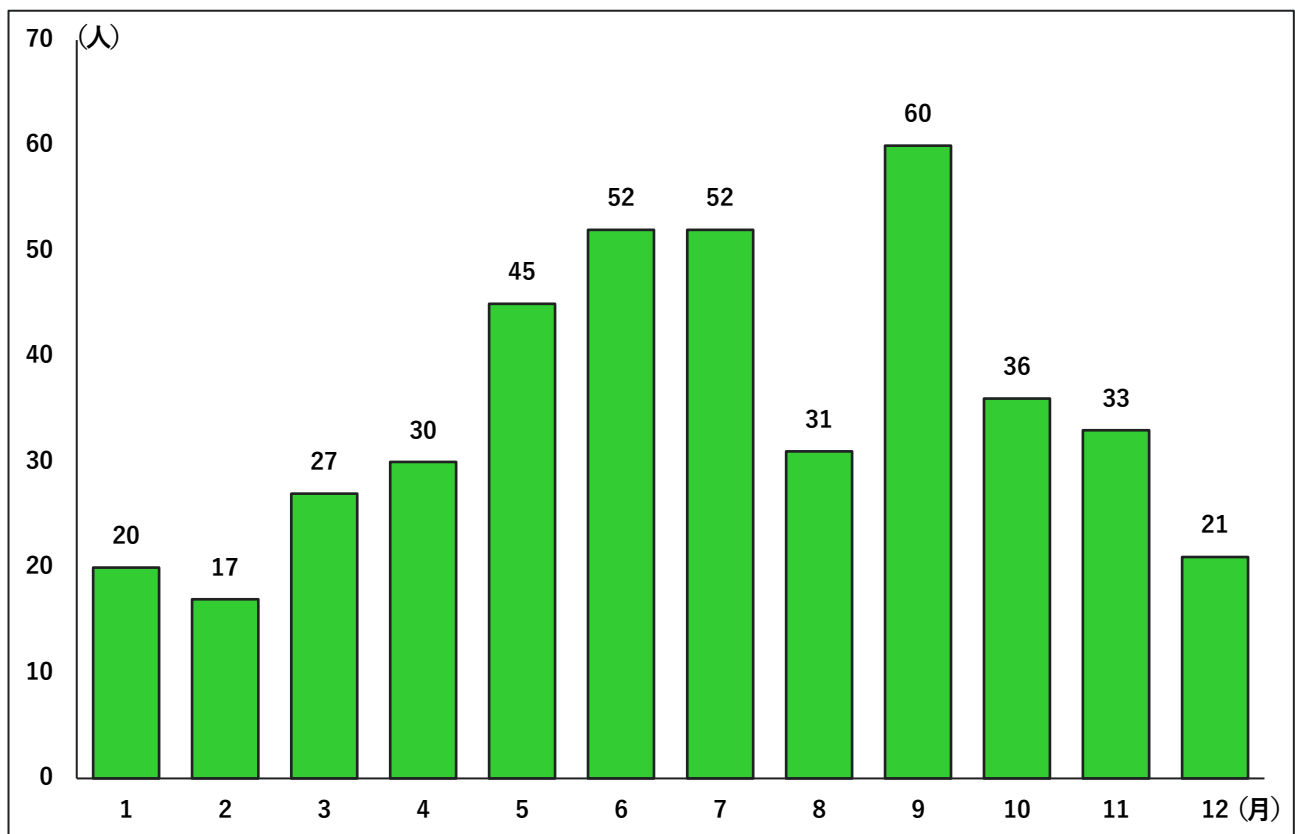
救急搬送に至った運動競技事故の中には、接触や転倒など競技の特性により避けがたいものがある一方、熱中症やアキレス腱損傷など事前の準備や対策によりリスクを軽減できるものも含まれています。

競技者のみならず関係者の皆さんが事故の未然防止を図るため、郡山地方広域消防組合管内における過去5年間（2020年から2024年まで）の運動競技事故による救急統計をまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含むものは、小数点第二位を四捨五入した数値で表記。

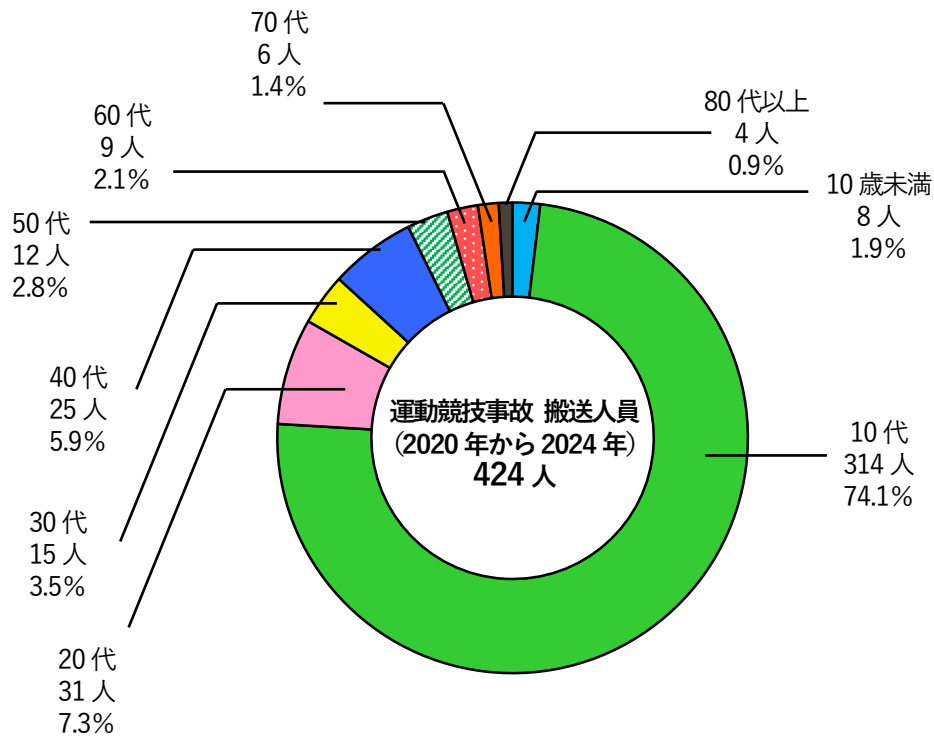
1 月別救急搬送人員

郡山地方広域消防組合管内では、過去5年間で運動競技事故により424人を救急搬送しました。月別で救急搬送人員をみると、9月が60人（14.2%）で最も多く、6月及び7月が52人（12.3%）、5月が45人（10.6%）と続きます。



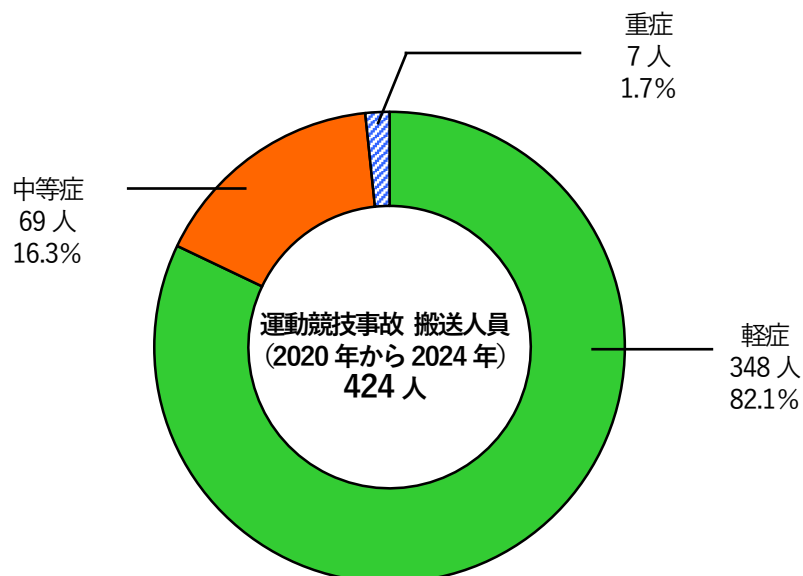
2 年代別救急搬送人員

年代別に救急搬送人員をみると、10代が314人（74.1%）、20代が31人（7.3%）、40代が25人（5.9%）と続き、10代の救急搬送人員は全体の7割以上を占めていることがわかります。



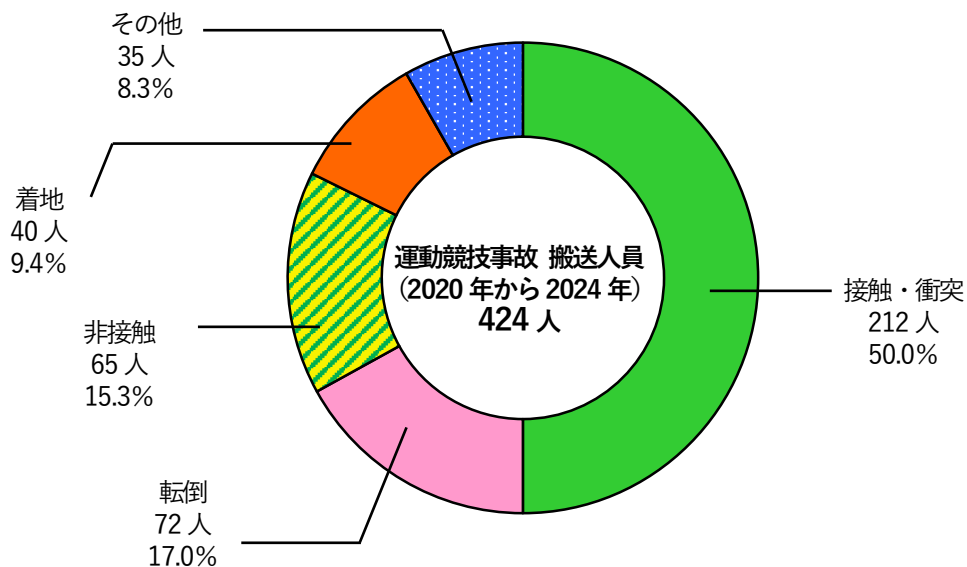
3 傷病程度別搬送人員

救急搬送人員424人を傷病程度別にみると、軽症が348人（82.1%）、中等症が69人（16.3%）、重症が7人（1.7%）となります。



4 受傷機転別搬送人員

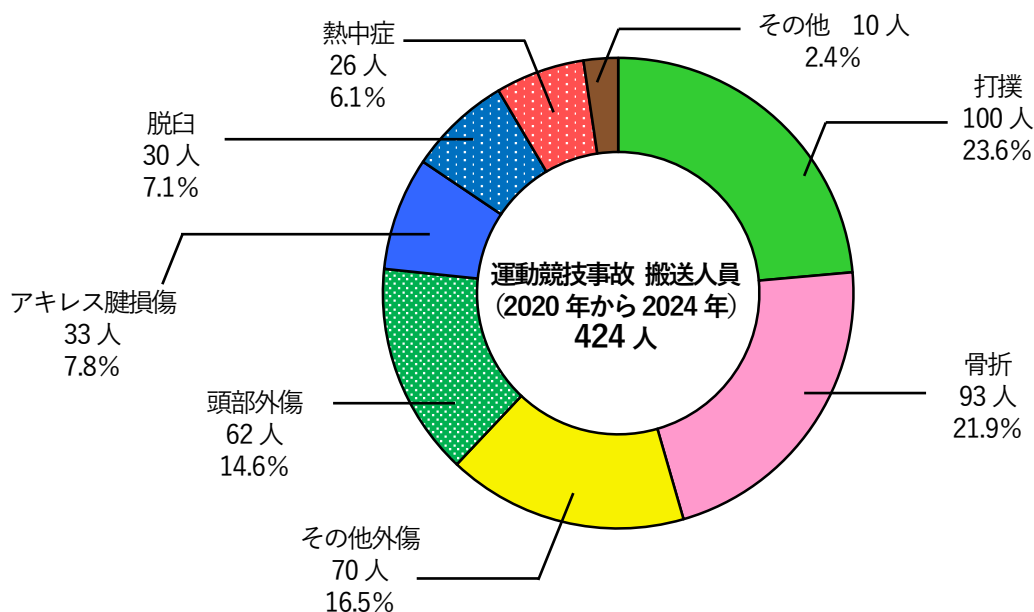
救急搬送人員 424 人を受傷機転で分類すると、「接触・衝突」が 212 人（50.0％）で半分を占めています。「転倒」が 72 人（17.0％）、「非接触」が 65 人（15.3％）と続きます。



接触・衝突……………競技者同士の接触や、壁や用具との接触により受傷
 転倒……………転倒や転落により受傷
 非接触……………競技者同士や用具等との接触を伴わない、踏切りや方向転換等での受傷
 着地……………着地時に受傷

5 受傷分類別搬送人員

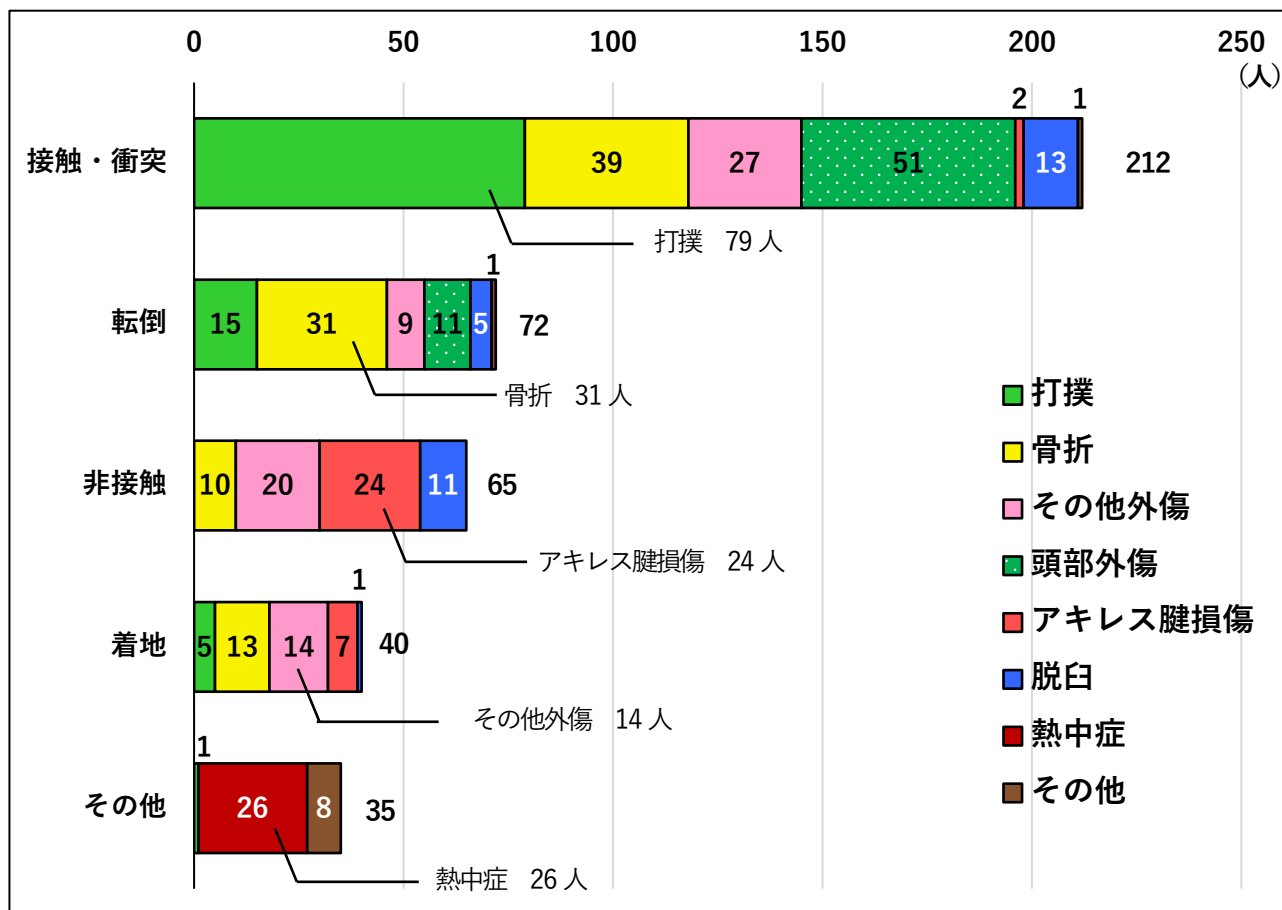
受傷分類別に搬送人員をみると「打撲」が 100 人（23.6％）が最も多く、「骨折」が 93 人（21.9％）、「その他外傷」が 70 人（16.5％）と続きます。



※ その他外傷とは捻挫等で、打撲や骨折に含まれないもの
 ※ 頭部外傷とは頸部より上を受傷したもので、脳震とうを含む。

6 受傷起点ごとの受傷分類の割合

受傷起点ごとに最も多い受傷分類をみると「接触・衝突」では「打撲」が79人、「転倒」では「骨折」が31人、「非接触」では「アキレス腱損傷」が24人、「着地」では「その他外傷」が14人となります。



7 安全にスポーツをするために

- ウォーミングアップ、クールダウンを十分に行いましょう。
- 自身の体調に合わせて強度を調節し、無理をしないようにしましょう。
- 気温などの気象状況に合わせて水分補給や休憩をとりましょう。
- シューズやサポーターなど、防具や用具を正しく着けましょう。
- 小さな子どもは、体調不良や痛みを我慢していないか指導者等の周りの大人がこまめに声をかけましょう。